



健康も、勉強も、環境も



えこぴよんは、2022年度も「快適さ」を意識して、「健康的」なキャンパスライフをおくりながら、地球環境問題の解決を目指す「環境+（プラス）」の「行動」を応援します。



ニューノーマルを意識した「環境 +（プラス）〇〇」の「行動」大募集

募集期間：2022年4月3日（日）～2022年5月8日（日）

法政大学環境センターホームページにて応募要領を確認して下さい。

法政大学環境センター



もれなくえこぴよん特製エコバッグとノートブックを呈します（数に限りがありますので応募多数の場合は別デザインとなります）

新年度特別企画



地球環境問題は、キャンパスにおける教育研究活動及び大学生活における一つ一つの行動の積み重ねが影響を与えていることから日頃の行動が大切です。

法政大学環境センターは、新年度の特別企画として、「快適さ」を意識して、「健康的」なキャンパスライフをおくりながら、地球環境問題の解決を目指す「環境+（プラス）」の「行動」を応援します。

「環境+（プラス）」の「行動」の具体例

その1.「環境」+「防災」

人工林の森林整備に参加し、間伐材からお箸を制作。大学にはMY箸を持参しています。



森林は生物多様性の保全、地球温暖化防止、水源かん養、土砂災害防止等の効果が期待されています。

その2.「環境」+「地域活性」

食材は必要な量を購入し、「冷蔵庫」に詰め込みません。可能な限り、「地産地消」を心がけています。



今夜は地元の野菜で「一人鍋」でも心と体は温まる。



その3.「環境」+「健康」

エレベーターのかわりに「階段」を利用し、一駅位の距離は「自転車」を乗ったり、歩いたりしています。



「健康」も「節電」も「節約」もトレーニングジムがわりに階段利用



2022年度のはじめにできることから始めてみます。



法政大学は、「持続可能な地球社会の構築を目指す拠点」としてSDGs（持続可能な開発目標）について重要課題と関連付けて取り組んでいます。

2022年4月 法政大学環境センター
E-MAIL: ickankyo@hosei.ac.jp



新年度特別企画（概要）

我々が暮らす「地球」においては、地球環境問題のように、我々人類の一つ一つの「行動」が遠く離れた「地球」のどこかで影響をもたらしている可能性があります。

本学は、地球環境問題の解決に向けた決意表明・宣言として、1999年に「環境憲章」を制定し、2017年度には、市ヶ谷・多摩・小金井キャンパスを対象範囲とした「法政大学環境マネジメントシステム(EMS)」を構築し、地球環境問題の解決に向けた取り組みをすすめています。法政大学環境センターは、2022年度のはじめに、新年度の特別企画として、「快適さ」を意識して、「健康的」なキャンパスライフをおくりながら、地球環境問題の解決を目指す「環境+（プラス）」の「行動」を応援します。2022年度も、我々人類の一つ一つの「行動」と「自然」とのつながりを意識し、教育研究と大学生活を充実させて、「地球環境問題の解決」を目指した取り組みに楽しみながら参加していただくきっかけとなれればと思います。



テーマ 「ニューノーマル」を意識して、「快適さ」を意識して、「健康的」なキャンパスライフをおくりながら、地球環境問題の解決を目指した「環境+（プラス）〇〇」の「行動」を募集します。

募集期間 2022年4月3日（日）～2022年5月8日（日）

対象 本学学生（学部・大学院）（団体ではなく、個人の取り組みに限ります）

「えこびよん」は、2022年度も「快適さ」を意識して、「健康的」なキャンパスライフをおくりながら、地球環境問題の解決を目指した「環境+（プラス）」の「行動」の募集結果を発表します。





塚原 悠登

(国際文化学部国際文化学科 3年)

応募タイトル:「環境+健康」マイボトル×ヘルシードリンクで健康維持!



「環境+(プラス)〇〇」の「行動」を具体的に記入して下さい。
(600字以内、写真三点以内)

マイボトルは環境にいいとされる記事を見ますが、実際には約12回以上使用しなければペットボトルよりもリサイクル時のCO2排出量は削減できないので、新しいマイボトルを沢山買うようなことはしません。また、おしゃれなマイボトルなどを持っていくとペットボトルよりも見た目がいいのでキャンパス内やカフェでも使用します。保温・保冷機能があるところもマイボトルの良いところですね。

あと、ペットボトルを毎日買うと月に4,200円(約130円×30日=4,200円)ほどかかるので経済的とは言えません。そのお金を使ってビタミンやミネラル、食物繊維を体にいい飲み物から摂取するようにしています。カフェインとL-テアニン(アミノ酸の一種)を含む緑茶などは脳機能が向上するのでよく飲みます。

私はお菓子ばかり食べていて糖尿病になると思うので、それを抑える可能性があるザクロジュースを飲むようにしています。

参考資料: https://www.city.katsushika.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/015/773/290903p.pdf





青木 怜奈

(文学部心理学科 4年)

応募タイトル:「環境+美容」マイボトルを持参し、大学内の給水機を使って1日1～2リットル飲むように心がけています。

「環境+(プラス)〇〇」の「行動」を具体的に記入して下さい。
(600字以内、写真三点以内)

社会問題化している「廃プラ」に取り組んでいます。これは、数年前から法政大学がSDGsに取り組んでいると言っているにもかかわらず、プラスチック削減に貢献しようとしめない学部生や、大学の在り方に違和感を抱いたことがきっかけで始めました。ペットボトルを利用しないことが必ずしも正しい行為だとは思いませんが、現在の技術では「完全にリサイクルしきれない資源」として認識されていることに違いはありません。

普段からボトルを持ち歩くことで、廃プラに貢献することはもちろん、水分補給を意識的にするようになり、健康にも役立っています。願わくば、校内での給水機を富士見坂校舎以外にも増やして欲しいです。



夏季には、「快適さ」を意識して「健康的」なキャンパスライフをおくるために、「熱中症」予防もかねた「水分」補給が大切ですね。「環境」+「美容」を意識した素敵な取り組みですね。



大石 里咲

(人間環境学部人間環境学科 1年)

応募タイトル:「環境」+「Withコロナ」



「環境+(プラス)〇〇」の「行動」を具体的に記入して下さい。
(600字以内、写真三点以内)



「ごみを減らし」環境保全に少しでも役立つために、「布マスク」を「不織布マスク」と併用し、「布マスク」は洗濯して使いまわす。また、最近は「換気」のため窓を開けることが多いので、「暖房」や「冷房」ではなく、「自分の上着」などで「体温調節」するようにする。これからもまだまだ「感染予防」は必要になってくるので、心がけていきたい。



地球環境問題の解決に向けて、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を講じながら「体感温度の調整」も併せて大切ですね。



ペットボトルの資源化を目指して、ちょっと離れた店舗まで歩いて「環境」+「健康」の一石二鳥。

村石 果奈
(法学部法律学科 2年)
応募タイトル:「環境＋ポイ活」

「環境＋(プラス)〇〇」の「行動」を具体的に記入して下さい。(600字以内、写真三点以内)

自宅で出た空きペットボトルを、ゴミとして捨てるのではなく、近所のセブンイレブンに設置されている「ペットボトル自動回収機」に持っていき、回収してもらっています。

数か月前に、自宅近くのセブンイレブンに回収機が設置されたことを機に知り、始めました。ここで回収されたペットボトルは、ペットボトルを資源として活用し、再びペットボトルに再生されるそうです。そのため、手軽に「ゴミ削減」や「リサイクル」に協力することができます。また、この回収機に持っていくことは、環境だけではなく私たち自身にもメリットがあります。それは、5本持っていくと、電子マネーの1Pがもらえるということです。これを継続することで、賢くポイントをためることができ、「ポイ活」にもなります。

さらに、私が春休みにしていたのは、あえて自宅最寄りのセブンではなく、ちょっと離れた場所にあるセブンに徒歩で持っていくことです。これにより、散歩の動機ができて、健康にも繋がったかもしれません。





栗原 柚月
(文学部英文学科 3年)

応募タイトル:「環境＋節約」コンビニなどで買い物をする時には、有料のレジ袋を買わずにエコバックを持ち歩くようにしています。

「環境＋(プラス)〇〇」の「行動」を具体的に記入して下さい。(600字以内、写真三点以内)

私は昼食を大学内のコンビニで購入することが多く、頻繁に利用しています。その際、レジ袋を毎回購入すると、結果として膨大な枚数のレジ袋を消費することになります。さらに、一枚たった数円でも、塵も積もれば、レジ袋に費やした金額は大きなものになります。エコバッグを持ち歩くことで、レジ袋のようなプラスチックごみによる環境破壊の防止に貢献でき、レジ袋の費用を節約することも出来ます。



使い捨て資源のレジ袋を始めとして、一つ一つの「選択」と「行動」が「自然」とつながっていることを意識する必要がありますね。





朝倉 芳子

(経営学部市場経営学科 3年)

応募タイトル:「環境＋節約」

「環境＋(プラス)〇〇」の「行動」を具体的に記入して下さい。(600字以内、写真三点以内)

ペットボトル飲料を極力購入せず、外出をするときはマイボトルを持参しています。また、ペットボトルも1回使用したら捨てるのではなくて、洗って自分でリユースするなど有効活用しています。



ペットボトルやレジ袋を始めとする使い捨てプラスチックは、我々の生活を便利にしましたが、「海洋プラスチックごみ」による地球規模の海洋汚染の一因となっています。

「海洋プラスチックごみ」は、「マイクロプラスチック」となって、長期にわたり海に残るため、2050年までに魚の重量を上回ることが予測されています。